

2019. 11. 24

畑 啓之

なぜ「ローマ法王」から「ローマ教皇」へと呼び名が変更になったのか その背景

今回のローマ教皇フランシスコ来日より、その呼び名が「教皇」となった。前回36年前のヨハネ・パウロ2世来日時の呼称は「法王」であった。なぜ、「ローマ法王」から「ローマ教皇」へと呼び名が変更になったのか。その理由をWeb記事より引用した。

なお、ローマ教皇であるからローマ法王庁もローマ教皇庁に変更となるだろう。

「ローマ法王」「ローマ教皇」正しいのはどっち？ 国交樹立した1942年からくすぶる“表記ゆれ”の末路 NEWS 2019年11月23日

https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_5dd4af59e4b0e29d727ba8bc

- ・日本とバチカンの国交樹立当初の定訳は「ローマ法王」
- ・駐日のバチカン大使館の設置時に「ローマ法王庁」という名称で申請され、これを受けて日本政府は「法王」の呼称を用いて、メディアもそれに倣う
- ・日本のカトリック教会の中でも「教皇」「法王」の両方が使われていた
- ・日本のカトリック教会が1981年、「ローマ教皇」に統一
(※ 前回のヨハネ・パウロ2世の来日はこの年1981年、この時はまだ「法王」)
- ・日本政府はそのまま「法王」と表現し、メディアも既に浸透していた「法王」を継続
- ・「教皇」「法王」の2つの呼称が生まれる
- ・日本政府が呼称を「教皇」に変更すると発表

国会でもやり取り

外務省が言っていた国会質問は、2018年2月9日の衆議院予算委員会でした。立憲民主党の山内康一衆議院議員（下記引用を参照尾）が、河野太郎外務大臣（当時）に対して、次のように質問していました。（一部省略）

山内康一委員：ローマ法王庁大使館、バチカンの大使館の名称が実はカトリックの人たちにとっては余り望ましくない。日本語名称をローマ教皇と呼んでほしいというのがカトリック教会の公式な見解のようです。バチカン市国の大使館の名称変更を相手の政府に対して相談、協議する、もし相手が望むのであれば変えていくことをお考えになる余地はありますでしょうか。

河野外務大臣：駐日ローマ法王庁の大使並びに大使館及びバチカンに問合せをいたしました。が、いずれからも名称変更を求めているという御返答でございましたので、特にその後のアクションはとっておりませんが、いずれの大使館からも名称変更の要請がありましたときには、外務省としてしっかり対応をする。

国会

「法王」⇒「教皇」に方針転換

こうした背景もあり、外務省・日本政府はバチカンとの国交が樹立した 1942 年以来、大使館の表記にも習う形で「法王」の呼称を用いてきました。

ところがローマ教皇訪日目前の 11 月 20 日、方針転換を決めました。外務省・日本政府は今回の訪日に合わせて呼称を「教皇」に変更すると発表し、担当者は理由を次のように説明しています。

「今回の訪日に当たって準備を進める中で、書物などで一般的に教皇を用いる例が多く見られたためです。バチカンやカトリック教会側から要請があったわけではなく、日本側の判断です」

バチカン側にも、呼称を「教皇」に変えることに問題がないと確認がとれたと話しています。

過去の文書などの表記換えはしませんが、今後は公式の文書やホームページ、報道発表などでは「教皇」が用いられることとなります。

山内 康一 (Wikipedia)

山内 康一 (1973 年 8 月 25 日 -) は、日本の政治家。立憲民主党所属の衆議院議員 (4 期)。立憲民主党政務調査会長代理、同福岡県連代表。

福岡県筑紫野市生まれ。福岡県立筑紫丘高等学校在学中、国際基督教大学教養学部国際関係学科、早稲田大学政治経済学部、慶應義塾大学経済学部の三校に合格し、国際基督教大学教養学部国際関係学科を選び進学した[3]。大学では開発経済学を専攻。フィリピンに 1 年間留学した。国際基督教大学卒業後、国際協力事業団 (JICA、現国際協力機構) に就職。